

《『むくげ通信』253号
2012.7.29より》

自著紹介 むくげ叢書 6

『ひょうごの古代朝鮮文化』

一猪名川流域から明石川流域一

寺岡 洋

まず、“むくげ叢書”という寡聞な叢書について。この叢書は、むくげの会会員が各自のテーマを本にまとめたものである。1998年、“むくげ叢書5”が刊行されて以来途切れ、世間で知られることのない幻の叢書と化していた。

次いで、“むくげの会”について。「むくげ通信」表紙に謳うように、1971年、「朝鮮の言葉・歴史・文化を学ぶサークル」として誕生し、40年以上も「むくげ通信」を隔月に発刊する。

私は“むくげの会”に1984年に入会した。そこで、「通信」に書き始めたのが、今回の本にやっと結実したことになる。最初は播磨の古代朝鮮と関連する遺跡について書いていたが、本にまとめられなかつたので宿題である。

刊行した本のテーマは、倭（日本）と古代朝鮮との交流・交通である。交流が目に見える形で残るもののが遺跡（遺構・遺物）であり、この“叢書”は遺跡の紹介である。遺跡はまだ確認されていないが、資料により交流の場が推測できることもある。例えば、新羅からの使節（新羅使）については、敏壳（みぬめ）崎での接遇の仕方が明記されており、饗宴の場が存在したであろう。

現在、「渡来人」という言葉は広く社会に受け入れられおり、渡来系氏族、渡来系集団、渡来系文物など、「渡来系」を付けて使われる術語も多い。古代日本（倭）にあって渡来人のもたらした知識・技術などは決定的に重要で、かつ広範囲に及んでいる。モノから文字、支配・統治機構まで、ありとあらゆる分野にわたっており、遺跡はそれらを裏付けるものである。

人とモノの交流は、当時の東アジアの状況と関連する。人・モノの流れが朝鮮半島から日本列島への一方的なものであったということはない。

現在、韓国では大規模な発掘調査が進み、列島の政治勢力と密接な関連を持つ多くの遺物・遺構が見つかっている。典型的なものが栄山江流域の前方後円墳で、倭と百濟の交流を示している。

本書の章立ては以下のとおり。



■体裁 A5版・並製

235頁

■定価 1000円

十消費税

■発行年月日

2012年5月5日

■発行 むくげの会

■ISBN 978-4-944125

-04-3 C0036

第1章 阪神地域 — 猪名川流域・武庫川流域

猪名庄遺跡 — 秦氏・猪名部氏と猪名ミヤケ

若王寺遺跡 — 韓鍛冶（渡来系鍛冶）のムラ

猪名川西岸（尼崎・伊丹）の古墳 — 水堂古墳・

御園古墳・御願塚古墳・園田大塚山古墳

猪名川西岸を歩く — 川西市域

東武庫遺跡 — 近畿地方最古の方形周溝墓と

擬朝鮮系無文土器

宝塚市域を歩く

— 多様な横穴式石室、鍛冶関連遺物など

行基と猪名野 — 大規模な土地開発と社会福祉事業

行基・楊津院と河尻泊

— 猪名川河口につくられた院と行基五泊

武庫川下流域の渡来文化 — 西宮市域を歩く

第2章 北摂地域—武庫川中流域（旧摂津国有馬郡）

三田盆地の渡来文化 — 北摂ニュータウン遺跡群

三田盆地の渡来文化・続

— 北摂ニュータウン遺跡群（後篇）

武庫川中流域の渡来文化

— 宅原遺跡群（有馬郡幡多郷）を歩く

第3章 芦屋・東神戸地域 — 芦屋川から石屋川流域

芦屋川周辺（芦屋市域）を歩く（前篇）

— 城山・三条古墳群、竈形土器

芦屋川周辺（芦屋市域）を歩く（後篇）

芦屋川から住吉川まで — 深江北町遺跡・

小路大町遺跡・森北町遺跡・西岡本遺跡

住吉川から石屋川まで — 住吉宮町遺跡

住吉川から石屋川まで・続 — 郡家遺跡

第4章 生田川流域から明石川流域

生田川流域の渡来文化

— 生田町古墳・二宮遺跡・生田遺跡

新羅使と敏壳崎、行基と大輪田泊

苅藻川（新湊川）流域から須磨へ

— 上沢遺跡・室内遺跡

苅藻川（新湊川）流域から須磨へ・続

— 神楽遺跡・念佛山古墳・松野遺跡

・大田町遺跡・行幸町遺跡

明石海峡を見下ろす高塚山古墳群

— T字形石室・複室墳・線刻画・石室内火葬
舞子古墳群と毘沙門1号墳

第5章 明石川流域 — 大壁建物と煙筒が見られる地域

明石川流域・伊川谷周辺の遺跡

— 上脇遺跡・鬼神山古墳・白水遺跡・寒鳳遺跡

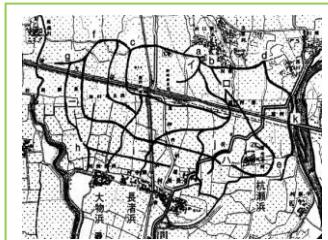
新方遺跡 — 近畿地方最古の弥生人

出合遺跡・吉田南遺跡と周辺遺跡

＊＊＊

猪名川流域から明石川流域まで多くの遺跡が調査されている。旧石器時代以来の人間の営為の跡が残るが、古代朝鮮との関係が濃くなるのが古墳時代中葉（5世紀前後）以降になる。

渡来人と関連する遺跡は河内・大和・山背・近江・吉備などで目立つが、我々の住む周囲にも少なからず存在する。発掘調査報告書や調査年報を頼りに足元に残された交流の痕跡を自転車とウォーキングで見てまわったのがこの叢書。取上げた遺跡のうち、特徴的な遺物・遺構を紹介したい。



■猪名庄遺跡（上図） 古墳時代中期、JR尼崎駅周辺は海岸であった。開拓したのは秦氏系集団であったと推測される。堤防が幾重にも巡る。

■若王寺（なこうじ）遺跡

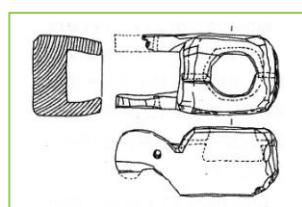
渡来系鍛冶集団である韓鍛冶（からかぬち）のムラ。多くの韓式系土器が見られ、船材を転用した井戸枠が注目される。

馬を運んだ船の船材（船底）を転用した井戸は、河内馬飼のムラでしばしば見られる。



■栄根遺跡の墨壺（墨縄）

大工道具の墨壺（墨縄）が出土した。平城京出土品と共に日本では最古級の遺品。墨壺は大工の棟梁（寺工 てらたくみ）が手に馴染んだものを持ってきたのが祖型であろう。船匠の猪名部（いなべ）も猪名川流域が本拠である。



■行基と猪名野

猪名野・伊丹台地は行基の活動を集大成する最も重要な舞台。今も広大な昆陽（こや）池、昆陽寺が残る。



■三田盆地と吉士

（きし）集団

金ピカの冠を着装して葬られた西山6号墳の被葬者（右）。

西山古墳群には横穴式木室と呼ばれる古墳も存在し、平方2号墳では火葬されている。



■宅原（えいばら）遺跡

— 有馬郡幡多郷の開拓集団

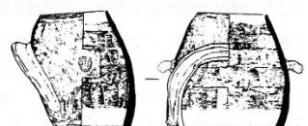
有馬評（郡コホリ）設立を担った秦氏系集団。墨書土器に「評」「五十戸（さと）」などが見られる。



■芦屋川流域と葦屋漢人（あしやのあやひと）

文献と遺跡が揃った稀な地域。竈形土器や釵子（さいし）が出土する。

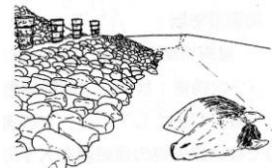
深江北町遺跡（葦屋駅家）では「棕人（くらひと）」銘の木簡も出土した。



■住吉宮町古墳群

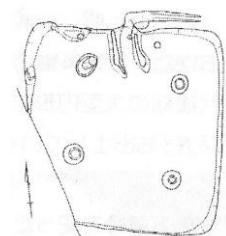
馬の殉殺

32次調査1号墳では、葬送の際に飛びきり貴重な馬を犠牲に屠っている。倭の地の儀礼ではない。100基に及ぶ大群集墳。



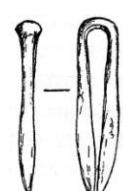
■郡家（ぐんげ）遺跡

煙道がL字形に曲げられたL字形カマド（オンドル状遺構）が調査された。牛の下顎骨を雨乞いに使うなど、渡来系集団のムラの様相を示す。



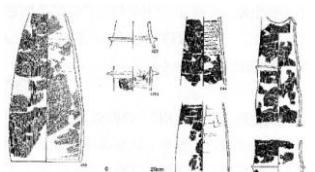
■生田町古墳の釵子（さいし）

新神戸駅の南にあった古墳から金属製の髪飾りである釵子が出土。鍛冶集落（二宮遺跡）の北に位置する。



■上脇遺跡の煙突形土製品

明石川支流の伊川谷からオンドルの煙突ではないかと推定される遺物が出土。類例は百済地域で見られる。



■寒鳳（かんぶう）遺跡の大壁建物

上脇遺跡の下流に忽然と出現した大集落。百済地域と関連する大壁建物が建てられている。大壁建物は韓室（からむろ）と呼ばれたのではないか。

■出合（であい）窯跡

日本列島最古（4世紀末）の窯窯（あながま）。